

平成 27 年度第 1 回東広島市総合教育会議での主な意見

◆ 子育て関係

- 親子のコミュニケーションづくり、親への教育が必要
- 子育てへの不安を取り除くための子育て世代への支援が必要
- 企業、職場が子育て中の保護者に時間的なゆとりを与えることも必要



つながる つなげる 育ちあいのまち（0歳からのスタート）（基本方針 1）

◆ 学校教育関係

- 本市の目指す子どもたちの姿「わんぱくでもいい、たくましく育ってほしい」
- たくましく今を生き抜いていく力、くじけることのない強い精神力をどのように育んでいくか。
（他人を認め、自分自身に負けない、諦めない精神力）
- 短所よりも長所に目を向け、個性を伸ばすことが重要
（子どもたちは一人ひとり様々な才能を持っている。）
- 自信を持って行動するには様々な経験が不可欠
- できない子が楽しめる環境、できる子がもっと伸びることのできる環境が必要
（子どもの実体験不足の解消、色々な体験の場の創出）
- 学校等に預けるだけでなく、家庭で子どもをみることや放課後に友達と遊ぶことも大事なこと。
- 日本の風土、文化としてあった、風が悪い、恥を知る、我慢、人を思いやる等々の道徳的な部分が薄れてきている。
- 子どもに生きる力をつけるには家庭だけでは難しい。子どもが地域の人と関わりができるようなことを考える必要がある。心を育てるには、家庭や地域との関わりも重要



知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成（学校教育を中心に）（基本方針 2）

◆ 大学との連携

- 4つの大学がある環境（地域特性）も活かすべきである。



知的資源を生かした人づくり（国際学術研究都市として）（基本方針 3）

◆ 生涯学習関係

- 文化・芸術等幅広い公演等から吸収し、成長、心の支えとなるものを見つけてほしい。
- 与えてあげる場（施設）と指導者と仕組みが大事
- 幼児期から様々なスポーツに触れる機会が必要
- 子どもと大人が一緒にでき、幅広いものに触れる機会が必要
- とんど作りなどを一緒にすることで地域での関わりができ、技の継承にもなる。



市全体を学びのキャンパスに（生涯にわたって）（基本方針 4）